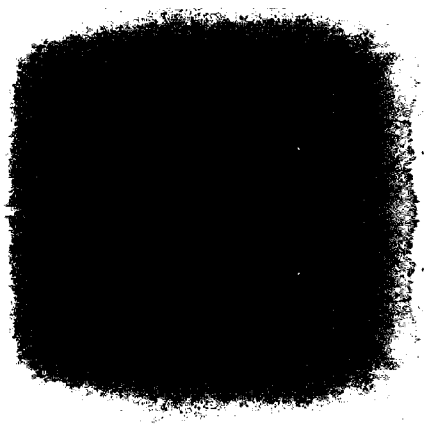


丸山薰  
全集  
1



# 丸山薫全集 1



角川書店



丸山薫全集 1

1976年10月21日 初版發行

|     |         |
|-----|---------|
| 著 者 | 丸 山 薫   |
| 發行者 | 角 川 春 樹 |
| 印刷者 | 和 田 彰 三 |
| 發行所 | 角 川 書 店 |

東京都千代田區富士見  
2の13 Tel (265)7111  
振替東京 3-195208  
東洋印刷・鈴木製本  
0392-573101-0946(0)

# 目次



晩 影 聲 夜 光 曉 1 鶴の葬式 4  
 餐 夕 空 彈 道 象と陽かげ 夜明け 冬 山

充 穴 衤 衤 衤 衤 禿 禿 禿 𠂔 𠂔 𠂔

峠 夏 春 3 入 江 酒卓の歌(Ⅱ) 酒卓の歌(Ⅰ) 波と泡 夕 暮 插 話 崖 翼 2 郷 愁 酒 宴 終 日

𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔

|   |   |       |    |        |   |      |      |     |   |   |    |     |    |    |   |
|---|---|-------|----|--------|---|------|------|-----|---|---|----|-----|----|----|---|
| 鴉 | 嘘 | 病める庭園 | 幼年 | 洋燈の思ひ出 | 4 | 水の精神 | 鶴の葬式 | 鶴の歌 | 家 | 火 | 屋根 | 地と天 | 哀傷 | 薄明 | 秋 |
|---|---|-------|----|--------|---|------|------|-----|---|---|----|-----|----|----|---|

|    |    |    |  |     |  |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|----|----|--|-----|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二六 | 二四 | 二三 |  | 一〇三 |  | 九 | 九 | 七 | 六 | 五 | 三 | 三 | 二 | 九 | 八 |
|----|----|----|--|-----|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

|     |     |       |    |    |   |   |    |     |        |      |      |    |     |    |
|-----|-----|-------|----|----|---|---|----|-----|--------|------|------|----|-----|----|
| 城の奥 | 蝶物語 | 二つのお臂 | 船長 | 兄弟 | 父 | 豹 | 望港 | 練習船 | 汽車にのつて | らいおん | 坊さん山 | 幼年 | 稻妻來 | 漁夫 |
|-----|-----|-------|----|----|---|---|----|-----|--------|------|------|----|-----|----|

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 二六 | 二五 | 二三 | 二三 | 二二 | 二〇 | 一九 | 一七 | 一六 | 一五 | 一四 | 一三 | 一〇 | 一九 | 二七 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|

一日集

朝暾章

朝暾頌

都會の服覺め

薔薇よ

鳩

新春

祈禱歌

閨

一日の夢

愛日章

愛日愛花

愛日行

夕映章

夕映に

砂上

午後

光の道

蝶の迹

早春

神

春鳥の歌へる

秋

神話

星夜章

星夜

雪の幸福

十二月二十四日

生計

一五八 一五九 一六〇 一六一 一六二 一六三 一六四 一六五 一六六 一六七 一六八 一六九 一七〇 一七一 一七二 一七三 一七四 一七五 一七六 一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一 一九二 一九三 一九四 一九五 一九六 一九七 一九八 一九九 二〇〇 二〇一 二〇二 二〇三 二〇四 二〇五 二〇六 二〇七 二〇八 二〇九 二一〇 二一一 二一二 二一三 二一四 二一五 二一六 二一七 二一八 二一九 二二〇 二二一 二二二 二二三 二二四 二二五 二二六 二二七 二二八 二二九 二三〇 二三一 二三二 二三三 二三四 二三五 二三六 二三七 二三八 二三九 二四〇 二四一 二四二 二四三 二四四 二四五 二四六 二四七 二四八 二四九 二五〇 二五一 二五二 二五三 二五四 二五五 二五六 二五七 二五八 二五九 二六〇 二六一 二六二 二六三 二六四 二六五 二六六 二六七 二六八 二六九 二七〇 二七一 二七二 二七三 二七四 二七五 二七六 二七七 二七八 二七九 二八〇 二八一 二八二 二八三 二八四 二八五 二八六 二八七 二八八 二八九 二九〇 二九一 二九二 二九三 二九四 二九五 二九六 二九七 二九八 二九九 三〇〇 三〇一 三〇二 三〇三 三〇四 三〇五 三〇六 三〇七 三〇八 三〇九 三一〇 三一〇

|       |    |          |    |
|-------|----|----------|----|
| 聖火    | 一五 | 學校遠望     | 一六 |
| 夢     | 一五 | 古い詩集     | 一六 |
| 忌日章   |    | 犬は跣足なり   | 二〇 |
| 椿     | 一六 | 孤獨者の犬    | 二〇 |
| 櫻     | 一六 | 路上で      | 二〇 |
| 愛慕歌   | 一六 | かなしい風景   | 二〇 |
| 亡骸に歌ふ | 一六 | 鑛業       | 二〇 |
| 野に立ちて | 一六 | 涙した神     | 二〇 |
| 鈴の歌   | 一六 | 泥いろの繪    | 二〇 |
| 悼歌    | 一六 | 犬と老人     | 二〇 |
| 鶴     | 一六 | 日蝕餘談     | 二〇 |
| 松に    | 一七 | 丘の雲に向つて  | 二〇 |
| 物象詩集  |    | 沖を見る犬    | 二〇 |
| 自序    | 一九 | 海風       | 二〇 |
| 日本の空  |    | 海暮れる     | 二〇 |
| 日本の空  | 一九 | 碑に       | 二〇 |
|       |    | 花よりも寂かなり | 二〇 |
|       |    | 犀と獅子     | 二〇 |

朝鮮

三三

「鶴の葬式」

天邪鬼

三六

十年

三九

夜の鈴

四〇

「帆・ランプ・鷗」

自在なランプ

四四

秋の印象

四五

「幼年」

雪の幸福

四六

ペンダイン鳥漂流

四九

燕

五一

涙した神

第一部

まばゆい春

二五

春景

二六

白い花

二七

未明の馬

二八

未來へ

二九

第二部

虎になれ

三〇

汽艇

三一

かなしい夢

三二

貨車

三三

點鐘鳴るところ

自序

三六

|           |     |
|-----------|-----|
| 「海王丸」について | 二八四 |
| 音楽のやうに    | 二八五 |
| 風         | 二八七 |
| 浪         | 二九〇 |
| 鳥         | 二九三 |
| 舵輪        | 二九五 |
| 水夫の足      | 二九七 |
| 帆船の子      | 二九九 |
| 航海當番表     | 三〇三 |
| 船おそぎ日に    | 三〇四 |
| 晝の海       | 三〇七 |
| 詩人の言葉     | 三〇九 |
| 日没五分前     | 三一  |
| 南の花       | 三二四 |
| 大洋で       | 三二六 |
| 帆をかつぐ若者達  | 三二九 |
| マストの思ひ出   | 三三三 |
| 雨のたより     | 三四  |

|         |    |
|---------|----|
| 海の旅人    | 三六 |
| シイラ來たる  | 三八 |
| 鰹を釣る    | 三〇 |
| 總短艇部署   | 三三 |
| 黎明當直    | 三六 |
| 林檎      | 四〇 |
| 海の印象    | 四三 |
| 鯨を見る    | 四四 |
| 島       | 四八 |
| コンパスづくし | 五三 |
| キャプスタン  | 五五 |
| 厦門碇泊    | 五七 |
| 厦門の燕    | 五九 |
| 陸の風 海の風 | 六三 |
| 海鳥      | 六五 |
| 歸港      | 六八 |
| わが窓に    | 七一 |

## 北 國

雪がつもる 三七六  
 静かな祭 三七八  
 綴り方 三八〇  
 お月様 三八二  
 お山の學校 三八四  
 遠い昔のやうに 三八七  
 冬の夢 三八九  
 獨 居 三九一  
 白い自由畫 三九三  
 北 國 三九五  
 まんさくの花 三九七  
 花の空想 三九九  
 春の朝早く 四〇一  
 あしあと 四〇四  
 狐 四〇六  
 高い村 四〇八

## 仙 境

山のさくら 四一〇  
 村を登れば 四一二  
 あの人達 四一四  
 春の夜 四一七  
 縁の教室 四三〇  
 三光鳥 四三三  
 美しい想念 四三四  
 宿 命 四三六  
 山の姫 四三八  
 仙 境 四三三  
 なめこ狩 四三六  
 鳥 達 四三八  
 深山ぐらし 四四一  
 母の傘 四四三  
 谷沿ひの徑 四四六  
 雪への想ひ 四四八

|         |     |
|---------|-----|
| 日本の良心   | 四五一 |
| 陰曆      | 四五五 |
| 曠野      | 四五八 |
| 鶴部      | 四六一 |
| 虹       | 四六三 |
| 早春      | 四六五 |
| 北の春     | 四六七 |
| 雪蟲      | 四六九 |
| 春を呼ぶ    | 四七三 |
| 小春      | 四七五 |
| 燕       | 四七七 |
| 新芽      | 四八〇 |
| 花と山羊    | 四八一 |
| 川をころがる石 | 四八三 |
| 風土      | 四八五 |
| 残雪      | 四八六 |
| 蝶や鳥     | 四八八 |
| 水田の中に   | 四九〇 |

|      |     |
|------|-----|
| あとがき | 四九二 |
| 解説   | 四九五 |
| 編註   | 五二〇 |

|     |     |
|-----|-----|
| 竹中郁 | 四九五 |
|     | 五二〇 |

帆・ランプ・鷗

暗い海 霧 河 弔 鶴 破 砲 風  
 歌 歌 片 壘  
 2  
 曲馬團一景 ランプと信天翁 離愁 鷗の歌 ランプの歌 帆の歌 錨 河口 1

象と陽かげ 夜明け 冬 山 4  
 顔の MEMO 風雨の言葉 惡太郎 廂 噴水 アシカ 春 春 3  
 黄 黄 黄 街  
 昏 昏 昏

夕 彈  
 空 道



## 河 口

船が錨をおろす。

船乗の心も錨をおろす。

鷗が淡水から、軋る帆索（きし）（ほづな）に挨拶する。

魚がビルジの孔に寄つてくる。

船長は潮風に染まつた服を着換へて上陸する。

夜がきても街から歸らなくなる。

もう船腹に牡蠣殻（かきがら）がいくつふえたらう？